

呼吸器外科

指導医：呼吸器外科医師（指導医の資格のある医師）

上級医：臨床経験が8年以上あるが指導医養成講習会未受講の医員、および臨床経験7年以下の呼吸器外科医

指導者：病棟看護師長、臨床看護師

●一般目標（GIO）

呼吸器外科領域の健康上の問題を、全人的に把握するために診療に求められる基本的知識、臨床応用能力、態度を習得し各専門的医療に進むための基礎を築く。

●行動目標（SB0s）

- ・ 患者およびその家族との信頼関係を確立することが出来る。
- ・ 他職種を含めたチーム医療を理解し、その中で指導医、上級医と共に医師としての役割を果たすことが出来る。
- ・ 各種呼吸器外科関連の疾患の病理、病態生理を理解出来る。
- ・ 問診、身体診察を含む非観血的診断スキルを身につけ、総合的診断能力を養う。
- ・ 初期診断、および治療に必要な知識・技術を習得する。
- ・ 呼吸器独自の診察法、検査手技、臨床検査の実施及び評価、治療手技、薬物療法理解し習得する。
- ・ 救急医療にて求められる、迅速な判断・対応を身につける。
- ・ 地域中核病院にて診療に従事する重要性を理解し、病院連携の実際を学ぶ。
- ・

●方略

<病棟業務>

- ・ 担当患者の問診および身体所見をとり、指導医、上級医とともに検査計画、治療計画を立てる。
- ・ 担当患者の血液検査（採血等）、画像検査（エコー、CT、MRI）、呼吸機能検査など各種検査を見学する。
- ・ 指導医、上級医のもと、胸腔ドレーン留置・抜去などを見学、実施する。

<外来業務>

- ・ 外来にて、領域的研修内容の疾患を指導医、上級医とともに経験する。
- ・ 臨床研修2年目の研修医においては、問診、診察、検査オーダー、評価、処方といった「一般外来」診療を経験する。

<救急業務>

- ・ 担当患者の急変に対しては、指導医、上級医とともに直ちに対応する。但し時間外の急変については、業務過多にならないよう指導医、上級医とあらかじめ相談しておく。
- ・ 平日日勤帯の救急患者に関しては、救急搬送時において、外来もしくは救急外来診察室で指導医、上級医と共に対応する。但し時間外の急変については、業務過多にならない

よう指導医、上級医とあらかじめ相談しておく。

- ・ 研修医が日直および当直に入ったときも救急外来診察室で指導医、上級医と共に対応する。

<コンサルテーション>

- ・ 他の診療科からのコンサルテーションに対して、指導医、上級医とともに対応する。
- ・ 担当患者が他科受診する際には、指導医、上級医の指導のもとで院内紹介状を記載する。

<カンファレンス>

- ・ 毎週 2 回（水曜、木曜）の手術症例カンファレンスに参加する。
- ・ 入院患者の退院前カンファレンスや他職種カンファレンスにも参加する。

<研究会、学会、学術活動>

- ・ 研究会、学会に指導医とともに参加し必要に応じて発表する。

<週間スケジュール>

	月	火	水	木	金
8:30～12:30	病棟研修	手術	病棟	手術	病棟
14:00～17:00	病棟研修	手術	病棟	手術	病棟
17:00～				合同 CC	

●評価

- ・ 病院として定めた評価方法にて評価を行う。
- ・ 評価者は、指導医、指導者（病棟師長、臨床看護師）が行う。

●研修内容

1. 肺、縦隔の解剖・生理・病態生理について習得する。
2. 外来患者の問題点と外科に必要な身体的所見を正確に把握できる。
 - 1) 全身状態、頭頸部・胸部・腹部・四肢の診察と記載ができる
 - 2) 病歴の聴取やバイタルサインを把握できる
3. 基本的な臨床検査を自ら実施し、結果を解釈できる。
 - 1) 必要な検査を指示し、その結果を理解・解釈できる
4. 血液生化学、呼吸機能の結果を理解・解釈できる。
5. 胸部線検査の結果を解釈し、診療に活用できる。
6. 呼吸器外科の基本的手技を身につける。
 - 1) 滅菌操作の重要性を理解できる
 - 2) 糸結び、消毒、手洗いなどができる
 - 3) 外来で比較的簡単な創処置、縫合、止血などに参加する
 - 4) 皮下膿瘍などの比較的簡単な切開を自ら行う
7. 吸器外科の救急の初期治療に参加する。
 - 1) バイタルサイン・意識状態の把握、重症度および緊急度の把握ができる
 - 2) 循環動態の把握や血管確保ができる
 - 3) 気道の確保ができる

- 4) 外傷・熱傷・中毒の病態の把握ができる
- 5) ショックの診断と治療に参加できる
8. 外来・入院患者の検査・診断に参加する。
 - 1) 必要な検査の適応を判断するとともに基本的な検査を自ら行うことができる
 - 2) 内視鏡検査および胸部超音波検査に参加し、診断できる
9. 入院患者の処置・治療・手術に参加する
 - 1) 基本的な処置や治療法を理解し行うことができる
 - 2) 基本的な手術に第一助手として参加する
 - 3) 薬物療法、輸液、輸血などの作用、副作用を理解し実施することができる
 - 4) 取り扱う呼吸器疾患
 - 呼吸不全
 - 呼吸器感染症（肺炎）
 - 胸膜、縦隔、横隔膜疾患（自然気胸、胸膜炎）
 - 肺癌
 - 良性肺腫瘍
 - 外傷性血胸・気胸
10. 術後管理を指導医のもとで行う。
 - 1) バイタルサイン、水分バランスの重要性を理解する
 - 2) ガーゼ交換を行い、清潔操作を理解する
 - 3) 異常事態発生時の適切な処置法やその早期発見法を学ぶ
11. 緩和ケアに参加し、終末医療を経験する。